

第 24 回ものづくり大学教育研究推進連絡協議会議事録

1、日時:2025 年 9 月 30 日(火) 14:00~15:30

2、場所:ものづくり大学

3、出席者:47 社(団体)52 名

4、議事

(1)会長挨拶

正井協議会会長から挨拶があった。

(2)大学の現状及び取組みについて

國分学長から、大学の現状及び取組みについての説明があった。

(3)大学と産業界との連携について

眞鍋ものづくり研究情報センター主幹から、「ロボティクス社会実装センター」「地域木材／森林共生研究センター」について説明があった。

(4)教育改革について(リテラシープログラム)

澤本教養教育センター長から、リテラシープログラムについて説明があった。

(5)ものづくりベース:MONO BASEについて

松本MONO BASE運営委員長から、ものづくりベースについて説明があった。

(6)学生成果発表

学生 3 名から学びの成果の発表があった。

①インターンシップの成果報告

建設学科 3 年 茅根 郁弥

②若年者ものづくり競技大会

建設学科 2 年 小野 和可奈

③学生プロジェクトについて

情報メカトロニクス学科 2 年 菅谷 和明

(7)意見交換

(大野建設(株) 大野代表取締役社長)

「地域木材・森林共生研究センター」の今後の具体的な取組予定があれば教えていただきたい。

(眞鍋ものづくり研究情報センター主幹)

当面は現在行っている取組、例えば、木材を利用した中高層や広いスパンの非住宅分野

の新工法開発や森林保全のフィールドワークなどをセンターとして発信したい。

センターの設置の発信に伴い、新たに埼玉県産材の新たな乾燥法に関する評価試験の依頼も来ている。

（三芳合金工業（株） 萩野代表取締役社長）

近年は地球環境や環境汚染に関する教育の必要性が高まっているが、ものづくり大学として何か取り組んでいることがあれば教えていただきたい。

（國分学長）

地球環境に対する配慮はいまや小中学生から SDGs の概念を教えられて、子どもでもある程度の知識と概念は持っている。そのうえでものづくり産業界に人材を送り出す本学としては、ものづくりの過程において常に念頭に置くべきこととして、インフラであればメンテナンスをしながら長く使い続ける工夫、製造物は使われていずれ廃棄される際のことも考えたものづくりが必要になり、当初に計画した新学科構想ではそのようなものづくりの最終段階まで見通して社会課題発見から企画・構想を行う人材育成を目指した。同様の人材育成を現在は新学科ではなく、学科内のコース再編によって実現しようとしている。

（（有）伊藤建設 伊藤常務取締役）

数年前までは私のところでもインターンシップの学生を受け入れていたが、最近は学生が来っていない。ここ数年における学生のインターンシップ先の傾向に変化があれば教えていただきたい。

（久力学生課長）

以前と比べ、学生数に対して受入可能企業数が多く、インターンシップをお願いできない企業が多くなっている。

場所は、埼玉が多いものの、東京を希望する学生も多くなっている。また、大手企業にインターンシップに行く学生も多くなっている。

（8）寄付のご案内

5、MONO BASE 見学及び学内見学

以上